

ACT!

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2025年10月号



忍び寄る 菌・ウイルス **感染拡大** を 抑え込むために

はしか(麻しん)、結核、コレラ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)……

世界中の人びとの命は、感染症によって何度も危機にさらされてきました。

中でも、非常に感染力の高いはしかと結核は、一昔前の日本でも多くの人命を奪いました。

今回は、はしかと結核を例に、

国境なき医師団の感染症対策の取り組みを紹介します。



（はしか）

一刻も早く、一人でも多く。 ワクチン接種で命を守る

非常に感染力の高い麻疹ウイルスが引き起こすはしか（麻疹）は、世界中で流行を繰り返しています。2023年には推定10万7500人が死亡、その多くは5歳未満のワクチン未接種の子どもでした※¹。

はしかの予防に最も効果的なのはワクチン接種です。そのため国境なき医師団（MSF）は、治療とあわせてワクチン接種に力を入れています。2024年、MSFは、紛争などで医療体制がぜい弱な国・地

域や、狭い空間に人が密集し、はしかが広がりやすい避難民キャンプなどで、131万回以上のワクチン接種を実施しました。

ブルンジ南東部のムセニキャンプでは、2025年1月にコンゴ民主共和国（コンゴ）東部で起きた戦闘から逃れてきた人びとに対して、はしかをはじめとした感染症を防ぐための緊急対応をしています。「このキャンプでは、すでにはしかの感染が数件確認されていました。放っておくと、はしかが一気に

ムセニキャンプでははしかの予防接種をするMSFのスタッフ（ブルンジ）。栄養失調で免疫が低下した子どもは、はしかで命を落とすこともあるため、予防接種が重要だ。



© Dorine Niyungekor/MSF



風邪、新型コロナ、インフルエンザ……
みんなで予防！
日本の冬の感染症



かに え のぶひろ
蟹江信宏が解説します
（MSF 小児感染症科医）
© MSF

なぜうつるのか

冬になって寒くなり、乾燥すると粘膜の防御機能が弱くなるため、細菌やウイルスに感染しやすくなります。また風邪やインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などのウイルスは、湿度や気温が低い時

肌の発疹ははしかの症状の一つ（コンゴ）。



© James Oatway

【はしかの脅威】

- 感染力が強く、免疫がないと感染のリスクが非常に高まる
- 重症化すると、肺炎や脳炎を引き起こし、失明したり、命を落としたりすることもある



保冷したワクチンを運ぶ緊急対応チーム。道路がない地域にもバイクやロバを使って一刻も早く届ける（コンゴ）。

まん延する恐れがあるため、8500人の子どもたちに予防接種を行い、感染した子どもたちを治療しました」（MSFの緊急コーディネーター、バーバラ・ターシェット）。キャンプではマラリアやコレラが大流行する可能性もあり、MSFはその対策も進めています。

治療と親への健康教育で子どもをはしかから救う

子どもの命を守るには、早期の対応が欠かせません。MSFははしかの流行地にいち早く駆け付け、治療はもとより、子どもたちの親にはしかの症状や予防方法、ワクチンの有効性を伝える健康教育にも取り組んでいます。

※1 世界保健機関

期でも感染力が保たれます。閉め切った屋内の密集した環境で、咳やくしゃみの飛沫に含まれたウイルスを吸い込んだり、ウイルスがついた手で物を食べたりすると、口や目、鼻の粘膜から感染してしまいます。



© Michiko Furutani

（結核）

検査・治療・提言活動で 世界の結核撲滅に挑む

結核とHIVに感染し、治療中の患者さん（モザンビーク）。



© Marilia Gurgel/MSF

【結核の脅威】

- 毎年1000万人以上が感染※²
- 診断が難しい
- 治療は最低4～6カ月。薬剤耐性結核になると、治療期間が2年以上に及ぶこともある

2023年、125万人もの命を奪った結核※³。風邪のような症状からゆっくりと進行し、診断が遅れることや、一般的な抗菌薬が効かないことが、高い死亡率へとつながっています。

完治するには、抗結核薬を飲み続けることが必要です。長い治療は仕事や学業にも影響し、患者さんにとってつらいものですが、中断すると使用中の薬剤が効かない薬剤耐性結核になってしまうことがあるのです。

2024年、MSFは2万人以上の結核患者の治療を開始しました。結核は早期診断・治療が大切ですが、特に子どもの検査や治療は難しく、多くの子どもが命を落としています。そのためMSFでは、これまでの予防・検査・治療に加え、子ども向け検査ツール開発の必要性を国際社会に提言しています。

MSFスタッフの支えで長い治療を乗り越えた

「ただ涙があふれてきました」パキスタンのマフィファさんは、



MSFの移動診療でレントゲン検査を受ける子どもたち（フィリピン）。首都マニラのスラム街、トンド地区では住居が密集しており、結核が流行しやすい環境だ。

結核と診断されたときをこう振り返りました。彼女は治療をしても快方に向かわず、薬剤耐性結核になっていたのです。医師の勧めでMSFの診療所を訪れ、それから長い治療が始まりました。

「MSFは治療計画を立ててくれ、親身になって服用をサポートしてくれました」。結核を克服したマフィファさんは学業を再開し、幼少期の夢である法学の勉強を大学で続けています。



完治したマフィファさん（17歳）。
© Gul Nayab/MSF

こまめな手洗いと予防接種が大事

予防で大事なのは、こまめな手洗いや手指のアルコール消毒をすること。MSFの活動地でも、病院内での手指消毒は必ず行っています。飛沫による感染症は、マスクによる防御も有効です。また、インフルエンザや

新型コロナは、ワクチン接種も重要な予防法の一つです。あとは普段から食事と水分、睡眠を十分にとり、体調を整えておくことですね。かかってしまったときは体を休めるのが一番。持病のある方や高齢の方は、早めに医師に相談してください。

MSFの結核検診とは？

患者の早期発見のための結核検診では、症状などのヒアリング、レントゲン検査、今後の治療などのアドバイスを行っています。
動画で詳しくご覧いただけます。



© MSF
さら
ベビシュタイン紗良
（MSF日本事務局員）

フィリピン・トンドで取材してきました。

詳しくはこちら



※2、※3 世界保健機関「Global tuberculosis report 2024」
※ この記事はMSF小児感染症科医、蟹江信宏が監修しました。

……… 予防のまとめ ………

- ☑ 手洗いやアルコール消毒
- ☑ 予防接種
- ☑ 人が多く集まる場所でのマスク着用
- ☑ 十分な睡眠
- ☑ バランスよい食事と水分補給



MSFの挑戦は続く

——感染症対応ヒストリー

世界中で大流行を繰り返し、人びとの命を脅かす感染症。MSFは苦しむ人びとのもとへ駆け付け、難しい状況でもあきらめずに対応してきました。MSFの取り組みを、2000年以降に流行した感染症への緊急対応を中心にをご紹介します。

2014～2016

≫ 西アフリカのエボラウイルス病 大規模な緊急活動を展開



子どもの健康状態を確認するMSFのスタッフ(ギニア)。

ギニアから周辺国へ飛び火した、致死率の非常に高いエボラウイルス病(エボラ出血熱)。MSFは流行のピーク時に西アフリカ6カ国へ、日本人を含む320人以上のスタッフを派遣し、約4000人の現地スタッフと共に対応しました。現地では専門の治療施設を開設し、1万376人の患者さんを受け入れた他、感染拡大を抑え込むため、患者さんと接触したすべての人を追跡し、検査しました。

2022～2023

≫ 10カ国のコレラ流行地で活動

衛生環境が整っていない人口密集地域で発生しやすいコレラ。MSFはコレラが流行したケニアやエチオピアなど10カ国で、数百人を収容できる大規模なコレラ治療センターを設置し、治療に取り組んだ他、健康教育や給排水設備の整備、予防接種などを通して感染予防を進めました。



コレラ治療センター。患者さんが急増したため、増設しながら治療を続けた(ハイチ)。

2024～

≫ コンゴ民主共和国で エムボックスが流行

世界的な流行を懸念し、世界保健機関が緊急事態宣言を出したエムボックス(旧称サル痘)。MSFは現地に緊急チームを派遣しました。

2002～2003

瞬く間に広がったSARS ≪ 治療・予防・教育で感染抑止

重症急性呼吸器症候群(SARS)への対応では、香港、ベトナム、中国において、治療や薬剤の提供、予防に関する健康教育の他、医療従事者に対する院内感染防止の研修を行いました。



感染予防のため、病院の外壁を消毒するスタッフ(中国)。

2020～2022

70を超える国・地域で ≪ 新型コロナウイルス感染症に対応

2020年1月に香港で開始した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応は、感染拡大に伴い、70を超える国・地域へと広がりました。専門の治療センターの設置、感染者の治療、感染予防のための健康教育など、幅広い活動を実施。特に難民や避難民など、弱い立場に置かれた人びとへの援助に注力しました。



病院で酸素ボンベを運ぶスタッフ。酸素供給が途絶えると患者さんの命に関わる(イエメン)。

2023

MSFと複数団体の訴えで ≪ 結核検査キットの価格引き下げ

結核診断に使われる検査カートリッジは価格が高く、多くの低・中所得国は、診断を必要とするすべての人びとへ検査を広げることができていません。MSFが複数の団体と共に値下げを訴え、20%の値下げが実現。さらなる値下げを呼び掛けています。

MSF連絡帳

寄付の税制優遇措置(寄付金控除)について

国境なき医師団(MSF)日本への寄付は「確定申告」を行うことで寄付金控除の対象となります。申請の際には、MSF日本が発行した領収書が必要となります。なお、年末調整では寄付金控除のお手続きは行えませんのでご注意ください。

領収書のお届け時期について

「毎月の寄付」でご支援の皆さま

- 2026年1月下旬までに、2025年分の年間領収書をご登録住所宛てにお送りいたします。

「今回の寄付」でご支援の皆さま

- MSF日本への入金確認後、都度発送しております。
- 1年分まとめて発送の設定にされている方には、2026年1月下旬にご登録住所宛てにお送りいたします。



© Ayano Kinoshita

2025年分の税制優遇措置(寄付金控除)対象の寄付のお申し込みについて

2025年11月以降のお申し込みで2025年分の寄付として領収書をご希望の方は、ゆうちょ銀行へのお振り込み(2025年12月末日付の振込完了まで)をお願いいたします。その他のお支払い方法の場合、11月以降のお申し込みは2026年分(来年分)の寄付となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※ 確定申告のお手続き・領収書に関する最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご確認ください。

詳しくはこちら



書籍のご案内

ニュースでは見えない、MSF活動地での現実がわかる2冊をご紹介します。秋の夜長にどうぞ。

『「国境なき医師団」をそれでも見に行く 戦争とバングラデシュ編』

2024年、バングラデシュのロヒンギャ難民キャンプを訪れ、MSFの現場取材した、作家・クリエーターのいとうせいこうさんが、人びとの現実と人道援助の最前線を描きます。

著／いとうせいこう
講談社 1980円(税込)



『ガザ、戦下の人道医療援助』

やまない空爆、破壊される日常——。現地でMSFの緊急援助活動を統括した萩原健が、戦下のパレスチナ・ガザ地区の過酷な現実と人びとの苦悩をつづります。

著／萩原健
ホーム社
2200円(税込)



大好評! メルカリ出品の売上金を寄付できます

ご家庭で使わなくなったお品物があれば、ぜひ「メルカリ寄付」へ。出品して得た商品の売上金をメルペイ残高から寄付できます。右の二次元コードからMSFにご支援いただけます。

メルカリ寄付は
こちらから



財務・活動報告 2024

国境なき医師団 (MSF) 日本の
2024年度の活動要旨をお届けします。
皆さまの温かい思いが、今日も
世界各地で多くの命を救っています。
スタッフ一同、深く感謝しております。

2024年、
日本からは
31の国と地域へ
103人(延べ**128**人)を
派遣しました。

詳しくは活動報告書2024年度版をご覧ください。
https://my.ebook5.net/MSFJ_Publication/AR2024/



- … 日本からスタッフが派遣された国・地域
- … その他のMSFの活動国・地域
現地調査など小規模な活動のみの場合は含まれません。
- … 海難搜索救助活動

パレスチナ



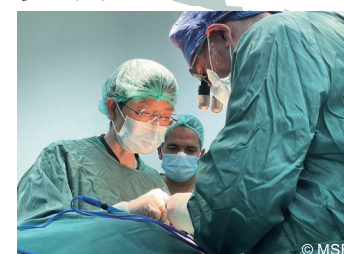
仮設病院の建設や
インフラ整備などを担当
[ロジスティシャン]

ナイジェリア



現地の医療課題や人道状況の
調査・分析などを担当
[人道問題渉外担当者]

レバノン



救急対応や外科手術、術後管理を担当
[外科医]

日本



能登半島地震の
被災地で心の
ケアを実施
[臨床心理士]

●MSFの活動実績(一部)



外来診療件数

1649万3900件



はしかの予防接種を
行った件数

131万8100件



入院患者数

166万5200人



入院栄養治療プログラムを
受けた重度栄養失調患児数

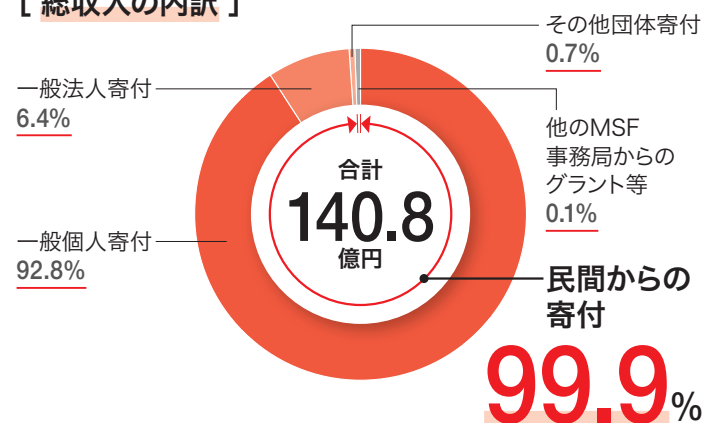
20万9000人

国境なき医師団日本

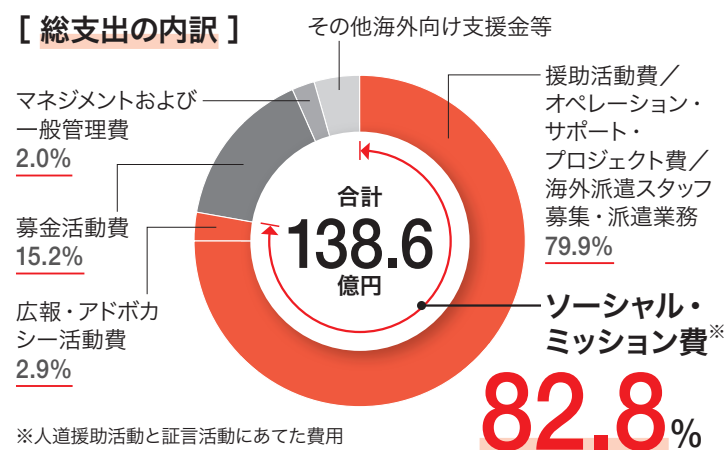
ご支援くださった**日本**の皆さま

42万2904人

【総収入の内訳】



【総支出の内訳】

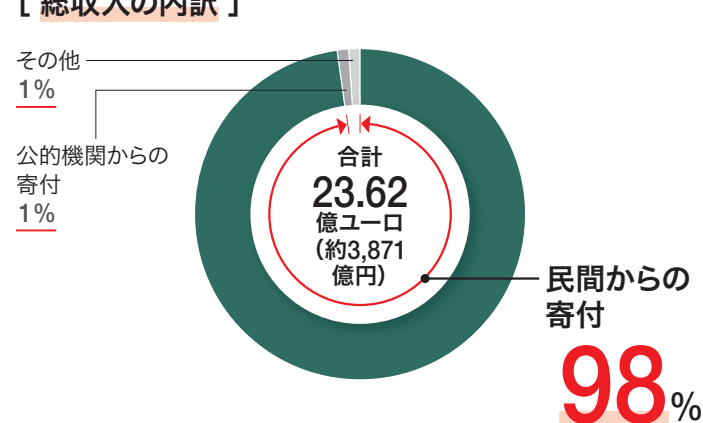


国境なき医師団全体

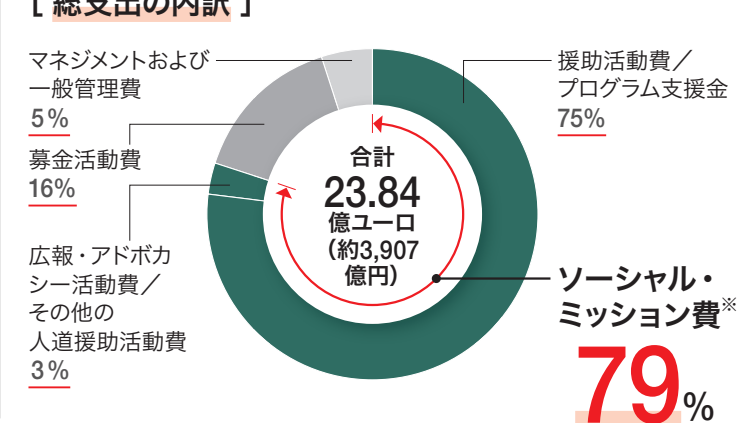
ご支援くださった**世界**の皆さま

710万人以上

【総収入の内訳】



【総支出の内訳】



2025

MSF現況報告

米国の国際援助大幅削減で
広がる未曾有の人道危機

2024年の時点で、米国政府は世界の国際保健や人道援助関連資金の実に約4割を拠出^{*}していました。しかし、2025年初頭に国際援助の大幅な削減を発表。いま世界では、これまで米国の支援を受けてきた多くの医療・人道援助事業が存続の危機にさらされています。

MSFは米国政府から資金提供を受けていないため、直接的な影響はありません。**活動資金の90%以上が皆さまからの寄付だからこそ、活動を継続できています。**一方、間接的な影響は次々と明らかになっています。MSFが連携する組織や事業が活動の中止や縮小を余儀なくされ、専門的な医療機関の減少や医療物資の不足、患者数の増加などがドミノ倒しのように起きているのです。

その一例が、低所得国において、安くて質の高いワクチンの安定供給を担うGaviワクチンアライアンス(Gavi)です。現在、GaviはMSFが使うワクチンの半数以上を活動国の政府を介して供給しています。つまり、今後Gaviのワクチン供給が滞れば、**MSFの予防接種活動への影響——ひいては、はしかやコレラなどワクチンで防げる病気で命を落とす子どもの急増に直結します。**

米国に続き、英国やフランスなども国際援助の削減を発表。悪化する人道状況を前に、MSFは行き場を失った患者さんを受け入れ、活動の見直しや拡大に取り組んでいます。皆さまのご支援を力に、私たちは走り続けます。

※ 出典：経済協力開発機構 (OECD)

わかっているようで
わかっていない

「相続財産の寄付」

みんなの知りたいこと

「相続財産の寄付」を知っていますか？

相続した財産を国境なき医師団(MSF)へ寄付する、「相続財産の寄付」についてのご質問をいただくことが増えています。そこで、皆さんの知りたいことをアンケート※で聞いてみました。

※ ウェブ調査 40～70代の男女400人対象 2025年7月に実施。



父さん、100歳になっても元気で
すごいにゃー！

しかし相続のことも
そろそろ
考えないとにゃー



「相続財産の寄付」について 知りたいことランキング



Q. 相続財産の寄付をすると、相続税はどうなるの？

A. 相続税の申告期限※¹までにMSFに「相続財産の寄付」をし※²、その旨を申告することによって、寄付した財産分を課税対象額から控除することができます。

※¹ 被相続人が死亡したことを知った日の翌日から10カ月以内。
※² 現金以外の財産は換価せずに寄付された場合に限る。



Q. 寄付した相続財産は、どんなことに使われるの？

A. MSFが世界中で展開する医療・人道援助活動に役立てられます。日々変化する状況に合わせた最適な使い道を検討し、寄付を配分します。

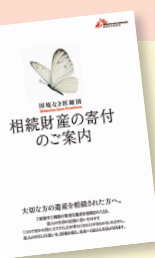


Q. 相続財産の寄付をする場合、どんな手続きをするの？

A. 「寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ」までお電話ください。手続きのご説明やお振り込み口座等のご案内をいたします。ご入金確認後、領収書および相続税申告にお使いいただける寄付証明書(全員)と感謝状(希望者のみ)をお送りします。

相続財産の寄付のご連絡とお問い合わせは

左下の「寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ」へお電話ください。



相続と相続財産の寄付に関する手続きや相続税のこと、注意点をまとめた、相続財産の寄付のパンフレットができました！ご希望の方に無料でお送りします。右の二次元コードからお申し込みください。

ご希望の方は
こちら →



お待ちしております！

『ACT!』のアンケートにご協力ください

今号の『ACT!』はいかがでしたか？ぜひ皆さまのご感想をお聞かせください。お寄せいただいたコメントは事務局員が読み、今後の参考にさせていただきます。

締め切りは11月30日(日)中です。

ご協力くださった方の中から抽選で10名様にMSFオリジナルランチバッグを差し上げます。



アンケートは
↓ こちらから



ニュースレター **ACT!** 2025年10月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL **0120-999-199** 通話料無料

平日9:00～18:00/土日祝日、2025年12月27日～2026年1月4日休業

※ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月の寄付」の変更は上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。

※2025年8月の情報を基にしています。最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。



マイページはこちら

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL **03-5286-6430** 担当者直通

平日10:00～17:00/担当：荻野、今尾、小芝

国境なき医師団ウェブサイト www.msf.or.jp



LOY2505